



私たちのふるさと新潟は、広い大地からはたくさんの農産物を、長い海岸線からは海の幸を、山からは木や山菜、清らかな水をもらいながら生活することのできる自然に恵まれた県です。

でも、こんな素晴らしい新潟県のことを、そして、まずは自分が生まれ育った須田地区の良さに、私たちはなかなか気づきません。

そこで、三年生では須田の地域の特色について学習し、

故郷を知り、故郷に誇りを持ち、故郷のためにがんばろう



たわわに実る梨

地域の中には知っていたようで、知らないたくさんの宝があることを知り、自分たちの地域の良さをもう一度確かめる学習を進めています。

(三学年担当 立川 徹也)

須田の果樹のつくり

三年

前須田の西村農園さんに行きました。西村さんは桃や梨を育てている農家です。西村さんの話を聞いていて、おどろいたことがいくつもありません。

一つ目は花粉付けです。特に洋ナシは、花粉付けを花の咲いた晴れた日に、家族だけでなくお手伝いの人をたのんで、朝から夕方までやって、必ず一日で終えなければなりません。

せん。あれだけ多い花すべてに花粉付けをたった一日で終えるなんてすごいと思いました。

二つ目はふくろかけです。多い時には一人で一日に、二千個もかけると話されています。本当に果物づくりをがんばっているのだなと思いました。

ぼくは、この須田の果物作りがもつときかんになって、有名になってほしいと思います。くだもの作りは須田の宝の一つです。

子供目線

西村農園さんのくだもの作り

三年

西村さんは、幸水・豊水・秋月・新高・新興などの和梨とルレクチェという洋梨を作っています。私は、こんなに梨の種類があるとは、思いませんでした。私が知らない名前が次々に出てきて、おどろきました。

西村さんは、梨がダニによって黒くなる病気にならないようにするために、葉をまいたり、肥料をやったりしながら大切に育てていると思います。

した。特に、土づくりをがんばっていました。山の土を持ってきて自然の力を使って、じょうぶに育てることが一番大切なのだと、私は初めて知りました。

私は、西村さんが大切に育てたくだものをお客さんにたくさん買ってもらうって、須田のくだものはおいしいという声がたくさんとどいてほしいと思いました。これからも、くだもの作りがさかんに行われる須田地区であってほしいと思います。



！わかったから？ハテナが